

令和4年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	1 2	議席 番号	2	氏名	若 林 志津子 議員	1 / 2
発言項目				要 旨		答弁者
1	学校給食をよりおいしくするためにできること			<p>学校給食は子どもの成長にとって大事なものである。学校給食センターの職員、調理員等もそのために日々取り組んでいると認識している。その給食をよりおいしいと思ってもらうために以下伺う。</p> <p>(1) 学校給食に対する子どもたちと教員の意見の詳細について伺う。</p> <p>① 子どもたちからはどのような意見があるのか。また、その意見は材料、味付け、または牛乳についてなのか。意見の数は全体の何割ぐらいで、全校から意見が上がっているのか。また小学校と中学校の違いはあるのか。</p> <p>② 学校給食を食べている全校の教員の意見は聞いているのか。また、その内容について伺う。</p> <p>③ 学校給食を食べている調理員の意見とその内容について伺う。</p> <p>(2) それらの意見に対し、どのような対応をし、改善策はどのようにしてきたのか。</p> <p>(3) 学校給食運営委員会では、これらの意見について、議題に上がったことはないのか。</p> <p>(4) 令和4年9月定例会の小松議員の一般質問で、給食の残食率は12.23%とのことだが、学校給食調理を民間委託する以前の残食率の数字を伺い、現在と比較して多いのか少ないのか伺う。</p> <p>(5) 学校給食を食べている全員に対してのアンケートを行ってみてはどうか。</p>		市 長 教 育 長 関 係 部 長
2	放課後児童クラブでの困難事例の把握と対策について			<p>(1) 文部科学省が平成24年2月から3月まで全国（岩手、宮城、福島の3県を除く）の公立小中学校において、5万3,882人を対象にアンケート（通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査）を実施し、いわゆる気になる子と言われていて知的発達に遅れはないものの学習面または行動面で著しい困難を示し、発達障害の可能性のある児童生徒が、通常学級に在籍する児童生徒の6.5%との結果になった。気になる子が放課後児童クラブにも在籍している場合には、放課後児童クラブでも対応が求められる。放課後児童クラブごとに気になる子や対応に苦慮している困難事例などの聞き取り、または実態調査は行っているのか。</p> <p>(2) 気になる子への対応で、一人の児童に一人の職員が対応しなくてはならない場合は、加配措置を実施できるとなっている。加配している放課後児童クラブはあるのか。またできていない場合の理由について把握しているのか。</p> <p>(3) 加配できていないところや指導員が休業した時などの補充要員への対策について市の見解を伺う。</p>		市 長 教 育 長 関 係 部 長

発言 順序	1 2	議席 番号	2	氏名	若 林 志津子 議員	2 / 2	
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者	
3	ひとり親に対する相談体制と支援の拡充を求めることについて		<p>(1) 相談業務の中で、ひとり親の相談をどのように受けていて、件数はどのくらいあるのか。令和元年度から3年度までの件数を伺う。また相談内容についても伺う。</p> <p>(2) 相談内容からひとり親に対する新たな支援が必要だと思われることはあるのか。福祉部門と教育部門それぞれに伺う。</p> <p>(3) ひとり親家庭への支援について。</p> <p>① コロナ禍での食糧支援について、どのようなことができるのか。</p> <p>② ひとり親で親族も身近にいない家庭の場合、もし親が病気などで家に数日間から数か月、不在となる場合の対応について。また、現在実施している支援策はあるのか。</p> <p>③ 現在、ひとり親家庭には放課後児童クラブ利用料の補助は、保育料の半額で上限3,000円となっている。コロナ禍の物価高騰で数千円の負担も大変との声がある。利用料の負担額を一律3,000円にできないか。また、もし実施するとした場合、市の支出増額分はいくらになるのか。</p>				市長 教育長 関係部長